

長岡市・関係企業共同記者発表 要旨

日 時：令和2年10月19日（月）午後2時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【発表項目：長岡北スマート流通産業団地 第1期エリア

合同契約締結式・団地協議会発足式 共同記者発表】

| | | |
|--------------------|-------------|-------|
| 出席者：アサヒロジスティクス株式会社 | 代表取締役社長 | 横塚 元樹 |
| カナカン株式会社 | 代表取締役社長 | 谷口 英樹 |
| 新潟運輸株式会社 | 代表取締役社長 | 坂井 操 |
| JPC株式会社 | 代表取締役社長 | 吉原 誠 |
| 柳下技研株式会社 | 代表取締役 | 柳下 勇 |
| 株式会社S y s e | 代表取締役 | 門倉 朗 |
| 中越クリーンサービス株式会社 | 代表取締役社長 | 金子 重行 |
| 長岡市長 | | 磯田 達伸 |
| 長岡地域土地開発公社 | 理事長（長岡市副市長） | 水澤 千秋 |

（司会）

これより進出企業各社と長岡市による長岡北スマート流通産業団地第1期エリア合同契約締結式および団地協議会発足式を行います。なお、株式会社S y s e様は都合によりオンラインでの参加となります。

契約締結式に先立ち、磯田市長からごあいさつ申し上げます。

（市長）

長岡北スマート流通産業団地の第1期エリアにつきましては、昨年の7月3日に進出企業7社と進出協定を締結しました。新型コロナウイルスの影響で景気が冷え込む中ですが、本日、土地売買契約を締結できることを大変うれしく思っております。7社の皆さまに心から感謝を申し上げます。

今後、第1期分譲の企業の皆さまが操業された際には、当初設備投資額が71億円、年間売上見込額が88億円、従業員数が357人、うち新規雇用が126人と伺っており、大きな波及効果を期待しています。また、第2期、第3期の分譲に向けても弾みがついたと思っています。

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中で、企業の皆さまは感染防止と企業活動の

両立にご苦労されていると存じます。長岡市としても、これらが両立できるようさまざまな支援を考えていきたいと思っています。

一方で、新型コロナウイルスが首都圏の企業の地方移転のきっかけにもなっており、この機会を長岡市としてもしっかりとらえて、地方分散の受け皿になっていきたいと思っています。

長岡市は自然豊かで首都圏とのアクセスも良く、高度な技術を誇るものづくり産業が集積しています。産業のデジタル化を支援しながら、産学官の連携による新しい技術の創出や若者の起業・創業を生み出すための環境整備をさらに進めていきたいと思っています。

本日、長岡北スマート流通産業団地に立地する企業の連携を図ることを目的とした協議会も発足しました。この団地内企業の連携により各企業がさらに発展され、長岡の産業全体の活性化につながることを心から願っています。また、長岡には4大学1高専と15の専門学校があり、5,000人を超える学生がいます。若い人たちの採用にも大きな期待を寄せています。

当団地の第3期のエリアについては、現在予約分譲を受け付けておりますが、長岡市は今後も企業立地を進め、地域経済の発展と定住人口の増加に総力を挙げて取り組んでいきたいと考えています。

(司会)

続きまして、区画番号順に進出企業様より、自己紹介および団地進出の進捗状況などをご紹介します。

(アサヒロジスティクス・横塚代表取締役社長)

当社は、昭和20年に創業した食品物流専門の物流企業です。現在、関東・東北・新潟を含めた東日本全域において、1,300台のトラックと5,500人の従業員が24時間・365日体制で、1万8,000店舗のスーパーマーケット、コンビニエンスストア、外食産業への食品配送と、物流センターの運営をさせていただいています。2013年に初めて長岡市に進出し、既に約300人の従業員でスーパーマーケット向けの物流を担当しています。

東日本全域をしっかりとカバーできる物流ネットワークの構築を目指している中で、長岡の素晴らしい利便性にほれ込み、進出を決定いたしました。

令和3年春に着工し、1年後の令和4年春のスタートを目指して具体化を進めています。地域の皆さまの日々の食生活の下支えができるよう体制をより強固にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

(カナカン・谷口代表取締役社長)

当社は、食品酒類の卸売業を行っており、会社全体で約1,650億円の売り上げがあります。また、地方の卸売業3社でアライアンスを組んでおり、この持ち株会社の年商が約7,500億円あります。そのうち新潟地区では約200億円の売り上げがあります。本社は金沢市にありますが、新潟には45年前に、新潟県内に3店舗ありました大和百貨店の物流を担うために進出させていた

いただきました。

現在、新潟市と上越市に営業所を置いています。食品物流においては温度帯の変化もあり、これまでのような遠距離の物流では、なかなか安心・安全を確保できない状況にあります。私が7年前に新潟支店長をしていた時期にも中越地区の物流が課題となっており、今回、長岡市に流通産業団地ができることを知り、真っ先に手を挙げさせていただきました。中越地区を中心に、食の安全・安心を守るために、低温帯にも対応できる物流センターを建築しようと思っています。

ぜひとも長岡市をはじめ、地元の皆さまのご支援をお願いしたいと思っています。

(新潟運輸・坂井代表取締役社長)

弊社は、昭和3年に創業者・佐藤斎がトラック1台で運送をはじめたことが最初です。昭和18年の会社設立から、一昨年には創立75周年を迎えることができました。現在、従業員数は3,500人、店舗数について、北は弘前から南は神戸・和歌山まで90店舗、車両台数は2,700台、営業収入は560億円を有する会社です。また、建設会社、自動車学校など、グループ会社30社を有しております。

長岡市では昭和34年に営業を開始し、昭和53年に現在の長岡支店に移転して今に至ります。既に移転から40年を超えることから、建物の老朽化が進み、また、敷地も手狭であることから、新しい土地への移転を計画していました。そうした中で、高速道路へのアクセスがよく素晴らしい立地である長岡北スマート流通産業団地の第1期分譲に応募させていただき、本日の合同契約締結式にたどり着きましたことを大変うれしく思っております。

建物の具体的な計画については、ようやく検討を始めたところですが、令和3年に着工し、令和4年には操業を開始したいと考えています。地元企業として、しっかりと根をおろし、お客さまへより一層効率のよいサービスを提供して、少しでも地域のために貢献できるよう進んで参りたいと思っています。

最後に、第1期進出企業の皆さんとはもちろんのこと、今後予定される第2期、第3期進出企業の皆さんとも協力しながら、長岡北スマート流通産業団地が活気のある産業団地に発展していくよう頑張っていきますので、今後ともよろしく願いいたします。

(JPC・吉原代表取締役)

弊社は、今年でようやく15期を迎えた非常に若い会社です。従業員数は286人で、そのうち派遣事業の技術者が約250人います。新潟県内の技術者が不足している企業に、人材派遣をさせていただいています。

工場は三つあり分散しているため、これを集合させて効率の良い工場経営を目指していきたいと思っています。特にアクセスが非常に素晴らしい産業団地ですので、新潟県内はもとより、県外からも多くの仕事を取っていききたいと思っています。

なお、雇用も活性化させて、長岡市内の産業団地の中でも代表的な団地になれるように努力したいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

(柳下技研・柳下代表取締役)

当社は、埼玉県和光市に本社を置く従業員数161人の会社です。金属製品の加工、設備・装置を製造しており、特に自動化装置の製造を得意としています。また、金属製品では、自動車関係の本田技研の試作なども行っています。そのほかに半導体関係の事業にも進出し、順調に伸びています。今後も新しい分野のロボットやドローンなど、時代に合った仕事をこなしていきたいと思っています。

そのような中で、今の長岡工場が手狭になったため、大きくして飛躍したいと思い、便利な高速道路インター近くの長岡北スマート流通産業団地を購入しました。約5,000平方メートルの土地に事務所と工場を建設します。令和4年3月に着工し、同年10月頃に操業を開始する予定です。25人の従業員が働き、うち13人を新規に雇う予定です。

この産業団地を購入できたことを誇りに思うと同時に、社員も誇りを持って働ける職場になると思い喜んでおります。よろしく願いいたします。

(S y s e ・門倉代表取締役)

弊社は、機械設計会社として設立してから今期で36期を迎えました。設計会社としてのベースを生かしたものづくりを進めており、現在では、機械設計制御、加工、組み立て調整、機械配線まで一貫して行っており、そこが弊社の強みです。また、キサゲや、すり合わせなどの昔ながらの技術の伝承も進めています。

長岡北スマート流通産業団地への移転理由は、分散している工場と倉庫を集約し、効率化を図ることと、今まで場所を確保できず頓挫していたターゲット市場を明確に認識した部品の販売を地域の産官学金とも連携しながら行う計画があることが挙げられます。部品の販売は広域にわたると予想され、スマートインターの近くという好条件のもと、スピード感のある販売ができると考えています。

最後になりますが、進出協定もありますように、この産業団地には広域連携する多様な企業が集積されていますので、産業団地独自の取り組みにも期待しています。

(中越クリーンサービス・金子代表取締役社長)

弊社は、新潟市に本社を置き、全国に55カ所の事業所があります。1990年に長岡市の千手に拠点を設けております。売り上げは100億円弱あります。社員が400人、パート従業員が5,000人近くいます。パート従業員は、ほぼ清掃員です。地元の方を採用して、稼いだお金も地元にとしていく地場化という考え方を持っています。長岡市内には30人の社員がおりますが、100%近く地元の方を採用しています。

事業は総合ビルメンテナンスと高齢者用の福祉用具貸与事業をやっています。ますます高齢

化が進み、中越エリアでも高齢者の福祉用具貸与事業が伸びると考えています。これまで長岡市で30年近く商売させていただいておりますが、かなり人数も増えてきましたので、今回、長岡北スマート流通産業団地に進出させていただきました。

これからも、地域に根付いた事業展開で長岡市とともに発展していきたいと思っています。

(司会)

進出企業7社様より、各社の進捗状況についてご説明をいただきました。

これより、合同契約締結式を行います。磯田市長からは、土地売買契約書の締結に伴い、各企業様との公害防止協定書に署名をしていただきます。水澤副市長からは、長岡地域土地開発公社理事長として、各企業様と土地の売買契約書に署名をしていただきます。そして、各企業の皆さまからは、自社の土地売買契約書に署名をしていただきます。

(土地売買契約書・公害防止協定書へ署名)

(司会)

ここに進出企業7社と、土地売買契約公開防止協定が締結されました。

続きまして、記念撮影を行います。それでは、皆様ご起立をお願いいたします。

(写真撮影)

(司会)

次に、長岡北スマート流通産業団地協議会発足式を行います。

この団地協議会は、長岡北スマート流通産業団地に進出する企業の皆さまの連携を深めることを目的に設立するものです。第2期エリア、第3期エリアに進出する企業も、この協議会に加入することになります。

この団地協議会の会長については、本日、進出企業7社で設立総会を開き、J P C株式会社の吉原社長が会長となることが決定いたしました。J P C株式会社・代表取締役社長吉原誠様から一言ごあいさつをいただきます。

(J P C・吉原代表取締役社長)

本日、長岡北スマート流通産業団地協議会の総会において、私が長岡地域で社長をしていることなどから、初代会長となることになりました。大変、任の重さを感じ、身の引き締まる思いです。

今、世の中は新型コロナウイルス禍という非常に厳しい経済状況ですが、長岡で生まれた米百俵の精神、常在戦場の精神に則って、この状況を乗り越え、第2期、第3期分譲エリアにもますます優れた会社が集まってくることを信じています。

この非常にアクセスの良い産業団地が、これからの長岡市の雇用と産業発展になくはない存在になるとともに、新潟県ナンバーワンの産業団地と言われるよう第1期分譲エリア7社の皆さんと力を合わせてまい進して参ります。

(司会)

これより、契約締結と団地協議会に関する質疑応答に入ります。

(記者)

産業団地のアクセスの良さのほかに、4大学1高専という研究機関があるところも長岡への進出理由にしている会社があれば、期待するところをお伺いします。

(柳下技研・柳下代表取締役)

当社は先端技術を取り扱い、これからの時代に打ち勝っていきたいと考えていますので、大学や専門学校から良い人材を獲得したいと思い長岡に進出しました。

(記者)

柳下技研様では、半導体事業が好調だということのほか、ロボットやドローンにも力を入れていきたいとおっしゃられました。長岡でどのような事業展開をして、どこに若い研究者の力を生かしたいとお考えですか。

(柳下技研・柳下代表取締役)

現在、長岡工場では光ファイバー測定装置とロボットを作っています。ロボットは作ると同時に他の装置開発にも役立てたいと考えています。

また、ドローン事業については、長岡工場で行いたいと思っています。

(記者)

各社の建設予定の工場や事務所について、延床面積や階数、構造など教えてください。

(アサヒロジスティクス・横塚代表取締役社長)

約1,000坪の敷地に、各300坪ずつの冷凍・冷蔵・常温倉庫と、事務所を平屋で建設することを検討しています。ただし、将来、増設が可能なような構造にしようと考えています。

(カナカン・谷口代表取締役社長)

延べ床面積で約2,000坪です。これから基本設計に入り、詳細は今後決める予定ですが、人手不足などの問題もあり、社内初の自動倉庫の導入を検討しています。

(新潟運輸・坂井代表取締役社長)

事務所は3階建てを、荷さばき場は、約1,500坪で建設を計画しています。そのほかに、荷さばき場の上を利用した倉庫1,500坪、並びに平屋の倉庫600坪を計画しています。

(JPC・吉原代表取締役)

三つの工場を集合させるということと、本社、営業部門を移転し、5部門が一緒にする計画です。設計会社と建築会社は、ほぼ決まっております、これから細かいところを詰めていきます。

(柳下技研・柳下代表取締役)

設計や規模の詳細はこれから決めていきますが、約500坪の工場を2階建てで建設したいと思っています。2階部分は、設計を主に行う事務所になります。令和4年3月の着工を目指していま

す。

(中越クリーンサービス・金子代表取締役社長)

400坪に2階建ての建物を建設し、1階・2階の半分を倉庫にする計画です。

長岡は介護の関係の社員が多く、社員の半分以上が女性のため、女性にやさしい環境づくりをした事務所を考えています。具体的には、トイレやドレッサールームに特に力を入れた事務所づくりを考えています。

(記者)

建物の施工業者について、県内または県外の事業者のどちらに発注するか、お決まりでしたら教えてください。

(JPC・吉原代表取締役)

本社の建築を高田建築事務所が行います。工場の建設はワシツ設計にお願いしており、実際の施工業者の選定は、設計会社にお任せしています。

(アサヒロジスティクス・横塚代表取締役社長)

具体的な事業者の選定はしていませんが、最大限、新潟県内の経済に貢献できるような形で進めたいと考えています。

(カナカン・谷口代表取締役社長)

現在行っている基本設計が終わった時点でコンペを実施し、施工業者を決めていきたいと思っています。

(新潟運輸・坂井代表取締役社長)

当社のグループ会社である丸運建設が設計を行っており、今後も丸運建設で進めていきたいと思っています。

(柳下技研・柳下代表取締役)

まだ業者は決めていませんが、できる限り長岡市内、あるいは新潟県内の業者でやりたいと思っています。

(中越クリーンサービス・金子代表取締役社長)

当社は社内に一級建築事務所を構えておりますので、社内で基礎設計をやっています。建築は、長岡市内の建設会社を選定しようと思っています。

(司会)

以上をもちまして、長岡北スマート流通産業団地第1期エリア合同契約締結式および団地協議会発足式を終了します。ありがとうございました。